



題字・箱島信一書  
発行 修猷館同窓会  
東京支部事務局

〒185-0034  
東京都国分寺市光町2-14-85  
(有) パルティール内  
FAX 042-573-5060  
東京修猷会ホームページアドレス  
<http://www.shuyu.gr.jp>



浩々丹心輝萬古

弘毅書

浩々たる丹心萬古に輝く（大きな真心は永遠に輝く）

同窓会館にも掲示されている広田弘毅先輩の座右の銘です。

吉田松陰の「留魂録」にもある中国明代の官僚楊繼盛が、時の政治を批判したために罪を得て刑死するに臨んで残した詩「浩氣還太虚、丹心照千古（浩氣太虚に還り、丹心千古を照らす）」を踏まえたものとされています。伝えられてきた「自ら計らわず」「風車、風の吹くまで昼寝かな」、そして、最晩年の「物来順応」などの座右の銘に比して、その言葉の持つ清冽な力強さに打たれます。改めて、後輩への力強い励ましのことばと受け止められるところですね。

「浩々」の語は、本報20号に掲載された、広田弘毅先輩創設の学生寮「浩浩居」にも用いられています。

## 腰に差した一本 修猷魂を考える



東京修猷会会長  
箱島信一（昭和31年卒）

生が凝結されたような思いがして、深い感銘を受けました。

彼は31会卒業50周年記念誌に寄せた「私の恩人」と題する一文の中で、勉強嫌いの超低空飛行ぶりを軽妙な筆致で述べながら、先生方に如何に愛されたかを懐かしそうに振り返っています。カンニングのお目こぼしもあったとか。「劣等生」切り捨てや排除の論理とは対極の温かい空気が松沙君を守り成長させた事情がよくわかります。

明けましておめでとうございます。去年6月の総会のテーマは「修猷魂を次代に、そして世界に繋ぐ」でしたが、年頭に当たって私も「修猷魂」について改めて考えてみました。当然のことながら魂や精神の実体は、言葉という柄杓ではなかなか掬いあげにくく、ここでは抽象論に替えて二人の館友について書くことにします。

昭和31年卒業の同級生の一人に松沙悟君がいます。彼は修猷卒業後、裸一貫で社会に飛びこみ、時に苦杯をなめながら様々な事業を手掛けた後、晩年は警固校区自治協議会会長として新旧住民の融和に心を砕くなど、地域社会のために貢献することを生き甲斐とした人生を送りました。過去形で書くのは、残念ながら昨年9月、急逝したからです。

在校中は小柄ながらラグビー選手として活躍し、卒業後は束縛の少ない自営業者という立場もあって私たち31会の永久幹事の役割を果たしてくれていました。飄々かつ直情の男。福岡での通夜では財務省勤務の息子さんが威厳に満ちた父親像を述べ、地域のリーダーとして頑固で人情に厚い故人の人物が出席者からこもこも語られました。会場には警固子ども会育成会の小中学生が多数参列して壇上に整列し、「会長さん、有難うございました」と言って合掌。この光景に松沙君の見事な人

生が凝結されたような思いがして、深い感銘を受けました。彼は31会卒業50周年記念誌に寄せた「私の恩人」と題する一文の中で、勉強嫌いの超低空飛行ぶりを軽妙な筆致で述べながら、先生方に如何に愛されたかを懐かしそうに振り返っています。カンニングのお目こぼしもあったとか。「劣等生」切り捨てや排除の論理とは対極の温かい空気が松沙君を守り成長させた事情がよくわかります。

東中洲でスナックを開業の際、創業資金を申し込んだがどこも相手にしてくれない。思いつく限りの友人を訪ねて、修猷生の時しばしばお宅を訪ね息子同様に遇ってくれた同窓の蒲池徹志君のお母さんに借金の保証を頼んだら二つ返事で了承、歯科医院院長夫人の保証を確認した銀行は直ちに融資に応じてくれたというのです。それから数十年を経てその恩義のことを蒲池君に言ったら、「なんのことや？」。お母さんは何も息子に話していなかったのです。

これを讀んだ時、修猷館のこととなるとなぜ夜も日もないほど熱くなるのか、その秘密が分かったような気がしたものです。その彼が50歳台半ばのころ、雑誌の中で修猷氣質についてこんな風に言ったことを覚えていました。

は、10歳代後半の多感な時期、修猷生として自由な空気をたっぷり吸ったことと関係しているような気がします。自由と自主尊重の校風に育まれた精神は、社会の荒波にあってもそう簡単に劣化するものではありません。

もう一人は伊藤正孝さん。後に朝日新聞の国際記者として鳴らした私の1級上の先輩です。もう20年近く前のことですが、為替相場の見通しについて質問を受けたことがありますが。後でわかったのは、伊藤さんはエチオピアの反政府ゲリラをたびたび現地取材して多くの戦士たちと心が通じ合うようになり、出版で得た印税を彼らに送金しようとしていたのです。組織に属する記者としていささかルール逸脱のそしりを免れませんが、抑えがたい正義感と熱情のなせる業だったのだと思います。

伊藤さんが初めて衆議院選挙に出る親友の山崎拓さんに、貰ったばかりのボーナス袋を封も切らずにそっくり手渡したという話は今も語り草です。まだ駆け出しの薄給時代だから奥さんはたまらない。後できついお灸をすえられたそうですが、この二人はイデオロギーや政治的信条では相当隔たりがあったはずなのに、修猷という触媒がはいると忽ち一体化の化学反応が起きてしまったようです。

このように情や心意気といった要素がかなり濃厚なのも修猷魂の特徴と言えるでしょう。世界百都市でのジョギングを目指していた伊藤さんも既に鬼籍の人となって久しいのですが、感性に触れた事柄は経年風化に対する耐性が特別なのか、いつまでも懐かしく私の胸に留まっています。

二人を支えた修猷魂について思いつくままに書いてみました。ともに母校を終生誇りとし、熱くそして爽やかにそれぞれの生を全うしました。天晴れな人生だったと思っ



2009年度東京修猷会総会

「修猷魂を次代に、そして世界に繋ぐ」

2009年6月5日（金）、恒例の東京修猷会総会及び懇親会が、千代田区紀尾井町のグランドプリンスホテル赤坂で開催された。当日の雨模様、一部会費値上げの影響なく、例年を上回る628名が出席した。初の試みである託児ルームは7名の子供が利用した。

第1部総会  
第2部（恩師紹介）

第1部は物故者への黙祷、東京修猷会会長挨拶、修猷館同窓会会長挨拶、館長挨拶、そして報告事項、とつがなく進んだ。第2部は、招待恩師の紹介。今回は、3人の先生においでいただいた。バイタリティあふれる3名の先生方に伺った修猷への想いの一部を紹介する。

梅野哲雄先生（体育）

「部活も運動会も、あそこまでのほせてやらなかったら、修猷の東大合格者は一気に増えるぜ。でも、それじゃ、つまらんやろう」

新谷（現姓・田中） 尚子先生（国語）

「どうして、そうなる？ どうして、それをしなければならぬの？」と常に疑問を持ち、納得してから行動する生徒が多かった」

岡本圭吾先生（体育）

「正月の全国大会に出て、その春、東大にも現役で合格者を出す。夢ではなく現実にも可能だと信じている。実際、東大には何人も入っているし、あとはラグビーが花園に行くだけ」



左から岡本先生、新谷先生、梅野先生

第2部（学年企画）  
現役修猷生の声

年々男女比率が推移し、2009年はちょうど同人数。校舎は新築なった現在の修猷館高校。そこで学ぶ現役修猷生の声を、第63回修猷大文化祭にて取材（3月23日）、第2部で放映した。大文化祭運営委員長／副委員長、文化祭演劇出演者、卒業生としての皆さんの声は、文化祭催しのタイムスケジュールの合間、リハサルなしの取材に関わらず、修猷魂を感じる、エネルギーに満ち溢れた言葉であった。その一部を紹介する。

※今の修猷について

「学ぶ心さえあれば万物すべてこれ我が師」の精神が似合う「自由があたり前の中で自分に厳しく」その環境で学ぶ楽しさ

※将来の夢

「世界平和のための歯車に」「なんでもやってみて経験して社会の為にずっと働く」

※同窓会へ一言

「今の修猷をつくろうと取り組む現役を見守ってほしい」「歴史がある中で問題も感じる。それを伝えるのも役割」「我々はもっと向上する。日本の為に頑張らしよう」



取材風景（修猷館高校中庭にて）

第3部（懇親会）  
修猷魂を次代に



第3部冒頭の飛燕の舞（6世代共演）

※ちよつと小腹に蜂刺

今回は、総会と懇親会を同一会場で実施した。懇親会会場準備の待ち時間は、当日福岡からの応援組が空輸した「蜂刺（はちばさ）」480個（50kg）とお茶でもおとなし、福岡の山は降く間になくなり「白派」と「黒派」、郷愁を楽しんでいた。また、郷愁を醸しだした。また、郷愁を醸しだした。また、郷愁を醸しだした。

※託児ルーム

懇親会が始まる頃、託児ルームでは、7名の子供が託児専門会社のスタッフ2名と、日ごろと違う目新しい玩具で楽しく過ごしていた。初の試みであり利用いただけると、満足いただけると不安もあったが、実施して本当によかった。

※エールとして乾杯へ

懇親会は修猷館大運動会伝統のエール「飛燕の舞」ではじまった。照明を落とした中、飛燕元締が叩く和太鼓の音が力強く響く。壇上でスポットライトに照らされた、平成22年度の団長率いる、昭和58年卒から平成4年卒までの6学年総勢14名の一糸乱れぬ舞、そして会場からの掛け声「ゴー、ゴー、ゴー、ゴー、ゴー、ゴー」、会場の各々がそれぞれの運動会の時に戻っていた。



賑わう地酒・焼酎コーナー

熱気に包まれたまま壇上のエールのもと館歌を斉唱した。ますますお元気の宮川二先輩（昭和12年卒）のご発声で乾杯した。

※地酒・焼酎コーナー

懇談の時間は、懇親会から参加した方にもごらんいただくように、第2部放映の現役の声を再放映した。また、来賓席近くに開設した福岡・九州の地酒・焼酎コーナーは、水割り！ロック！のオーダーが絶えず、用意した25本は最後の一滴まで飲み干された。旧友との語らいの場がいっそうにはずんだのだと確信した。

※おやちバンド登場

そして満を持して、高校時代から45年の時を経て、おやちバンド「The New Young You」がステージに登場した。昭和41年卒のアランおやちが披露する懐かしいのペンチャーズ&ロックンロールサウンド6曲、いつの間にか応援の横断幕が広がり、曲に合わせて手拍子する人、歌詞を口ずさむ人、会場はひとつとなり、熱狂した。

※次世代へ

大喝采を受けたバンドが奏でるバックミュージックの中、平成21年卒の新人会員21名が登壇、紹介が行われた。次いで福岡の同窓会の幹事学年（昭和56年卒）の挨拶が続いた。そして、来年度幹事学年である昭和59年卒の代表として、服部豊君が力強く抱負を語り、最後に、飛燕団員で昭和59年卒の諸岡哲也君のエールのもとで「彼（の）群小」を歌い、懇親会はお開きとなった。

（昭和58年卒 幹事一同）

実行委員長より

2年前実行委員長を引き受けた時は、まったくゴールが見えなかったが、気がついたら多くの仲間とともに幸甚の絶頂の中、幹事を全うすることができた。このような機会を与えて頂いた同窓会に感謝するとともに、当日は雨の中、また新型インフルエンザ流行の最中、会場まで足を運びくださった皆様、東京

総会に参加して

NYK（昭和41年卒）

「青春の脈流」  
「早ようけん」とは聴きたかったバイ！と大先輩の大声で爆笑が起こり、会場の気がスーッと来た。還暦過ぎたオヤジバンドの演奏を楽しんで頂けている手応えを感じた。同時に45年間の時間の氷結が溶け、初めて修猷館でエレキバンドが誕生した。この頃にはエレキは不良だと学校での演奏は中止された。まだエレキは受け入れられる時代ではなかった。だが、今年の東京修猷会に初参加した女子大生が「高校時代にドラムをやっていた」と言ってきた。嬉しかった。エレキが作る「青春の楽譜」も捨てたものではない。それにしても「飛燕の舞」は素晴らしい。学帽、学らんに古き良き修猷を感じた。身体が疼いた。あの動きは、運動会を思い出させた。学校へ行くのが楽しく、頭中が運動会だけの日々だった頃を。破れ帽子、腰に手拭い、高下駄で通学した頃を。「青春の蹉跎で学ばせる方針の高校？」だったせいか、先生もちょっとの無茶は許してくれた。しかし先生の鉄拳は鼻血がでるほど厳しかった。でも優しさを感じた。東京総会でセピア色に変わったその青春の仄々とした面影を見た。蜂刺饅頭を食べながら58年卒幹事諸君が運動会のあの動きを懸命に後輩達に指導していた。そこに修猷の卒業年度を超えた「絆」を感じた。

絆のある良い山って若木と木だけではダメ。幼木も老木も

修猷会執行部の方々はじめ、ご指導ご協力くださいました多くの方々に、心より御礼申し上げます。

2009年度東京修猷会総会  
実行委員会実行委員長 島 保弘  
昭和58年卒...いっちょやる会



託児ルームの風景

必要。針葉樹林だけでもダメ。広葉樹林も必要。それらの混在とそのバランスの妙が良い山の条件。山に良いバクテリアを育て、良い水を生み、良い風を通して、良い土を作るから。生きる者に優しい良い山：修猷館はそういう山だ。皆と歌った館歌に伝統のある「青春の脈流」を感じた。身体が熱くなった。大切にしたい。（北郷 秀樹）

東京で再会したオヤジ達は「ザ・ニューヤングナイツ」のメンバーで無いつ...と言う人もいるが、を再結成...月2回4時間の練習と5時間の反省会？の他、キャンプ、合宿、ゴルフ等団塊の世代の Handbook となるべく第2の青春を謳歌している。（片田 正行）



演奏する The New Young Knights  
左から、Drums 北郷秀樹、Bass & Manager 桑原昭二、Lead Guitar 宮原正治、Lead Guitar 片田正行  
Vocal & Side Guitar 宮崎佳之  
(Producer: 安田修之助)

6/4だよ  
全員集合!

東京修猷会 2010年度総会のご案内  
メインテーマ「“今”に伝える、“今”を伝える」

2010年6月4日（金）18時 ホテルオークラ別館B2 アスコットホール  
（会場が例年と異なりますのでご注意ください）

幹事学年：昭和59年卒 悟空会

## 総会に参加して

小野 顕(平成2年卒)



飛燕を舞う小野団長(写真中央)

## 総会に参加して

緒方 祥子(平成21年卒)



平成21年卒の挨拶する緒方さん(写真中央)

今回の総会企画にて、懐かしい「飛燕の舞」を、しかも「団長」としての立場で、諸先輩方の前で舞わせていただくという光栄を賜りました。メンバー中で卒業年次が下から二番目の若輩者(但し、メンバー全員が「アラフォー」であるという括弧付きではありますが)にもかかわらず、分不相応にも最前列にて参加する機会をいただいたのは、まさに、「修猷魂」を次代に、そして世界に繋ぐ」との総会テーマに基づいた、先輩方のお心遣いだと思います。毎回の練習後の懇親会での幹事学年・メンバーの先輩方とお話、日比谷公園での深夜の直前練習、そして企画終了後の一体感と達成感等の、楽しくかつ貴重な経験を通じて、私が私なりに感じることのできた「修猷魂」を、次は自らが下の世代に伝えていく立場にならなければならぬという思いを、今回の文章を寄稿させていただくにあたり、改めて強くしております。この素晴らしい機会を頂戴したことにつきまして、非常にお忙しい中で様々なご指導・ご準備をいただいた、昭和58年卒の幹事学年の先輩方、更に、現在まで東京修猷会を支えてこられた歴代の諸先輩方に、本紙面を借りまして、心より御礼申し上げます。

昨春修猷を卒業した私にとって、6月の総会が初めての総会となりました。在学中から総会の規模の大きさ、同窓生の繋がり、の強さは耳にしていたのですが、自分の目で確かめてみると想像以上でとても驚きました。まず、広い会場に溢れんばかりの人の多さ。(実際に溢れていたような気がします。)

地元福岡でもないし、各々予定があるだろう中で、これ程たくさんの方がわざわざ集まるのは、やはり「修猷が好き」という気持ちで共通しているからだろうと感じました。また、年配の卒業生の方から多く声をかけて頂き、いろいろなお話を伺うことができました。同窓年の友達に会えたのも、高校時代に戻ったようでとても嬉しかったです。幹事学年になったときからとても楽しみにしていました。修猷での生活は3年だけの短いものですが、長い長い「修猷卒業生」としての時間が今から始まりそうです。先輩方のご指導を受けつつ、頑張りたいと思いますのでよろしくお願ひ致します。



## 「六光星」は熱く輝いている

池上 浩司(昭和58年卒)

昭和57年の運動会の開会式で総務の大浦は叫んだ。「タンブリングで重たくて苦しくなったら、それは六光星の重みと思え!陸上できつくなったら、六光星をひきずって走りようと思え!俺たち一人一人が修猷館を守る!」昭和57年は「もうかり」が廃止された年だった。悲壮感が漂っていた大浦は、成功裏に迎えた閉会式で叫んだ。「お前らは立派に六光星を支えてくれた。」



負傷者が出たため、タンブ長自ら7ピラに加わり見事完成

## 大運動会に見た修猷魂の繋がり

した土台ができた。タンブ長は腕を振りかざし、「乗り込め!」と叫んだ。「ドン ドンドンドン!」太鼓の音が鳴り響いた。4段目から順に乗り込んでいった。観衆にも力が入った。他のブロックからも「頑張れ!」の声援が響いた。5段目、6段目と乗り込むごとに、7ピラのバランスの難易度が増していった。最上段が乗り込んだ後、二組の7ピラは崩れた。完全には立つことができなかった。タンブ長は男達を背に、壇上に駆け上がった。溢れる涙を必死にこらえていた。最後の退場の指揮を執らなければいけなかった。

以上は、熱い男の友情があった。男達の手によって、タンブ長は2回、3回と空高く宙に舞った。タンブ長が、男達が、裸足で走った夏が去(い)った。今年の運動会の一つ一つのシーンに胸一杯になり、27年前の運動会のシーンが鮮やかに蘇った。翌日は代休というのに、沢山の生徒が登校した。広い運動場の真ん中で、黙々と片付け作業をする生徒、トイレを綺麗にする生徒、広いピロティの砂を掃き集める生徒、ヘッドキヤップを洗って干す生徒、大きなゴミを運搬する生徒、自らの使命を自覚し、一人ひとりがみんなのために何かをやるうとする姿勢を見て、幸せ感一杯になる館長先生。最後まで一生懸命にやり尽くす生徒と、生徒を暖かく見守る館長先生との間の奥深い信頼感に修猷の底力を見たような気がした。

大浦が27年前に繰り返し叫んだ「六光星」について確信した。「六光星」は熱く輝いている。(平成21年9月記)



この7、8分間にかけた情熱が表情、体全体から伝わる退場シーン



「見よ 我らのいのち」で始まった「ミュンヘンへの道」。最後のパネル文字

## 「ミュンヘンへの道」ふたたび

鹿野 謙二(昭和56年卒)



「80 BLUE」応コンのパネル案と共に鹿野さん

年間走れない状態に。ほとんどの競技は見学…。悔し涙にくれる中、人一倍熱心にやっていたのが、エロー応コンだった。72年ミュンヘン五輪男子バレーのTV「ミュンヘンへの道」のテーマが応援歌。6年前の感動を蘇らせた曲に魅了された。「3年でもこの曲だ」と誓ったのだ。

2年でも思う存分エールや各種競技をし、失地回復。80年、3年の夏に「青ブロック」応コン長へ。「何が何でもミュンヘン」との思いにあきた(?)。応コン委員に助けられ計画始動(この年、幻のモスクワ五輪)。1年のときの曲を基に歌詞とパネル文字を練り上げた。「この日を永久に忘れない」と想いを込めて。ラストのパネルは「わが、セイシュンのOLYMPIC IN SHUYU」

時は流れた。しかし「あの夏の日の歌」はその後も、人生の日々への応援歌として私の胸で響き続いている。下でまた会おう、友よ。

## 【「ミュンヘンへの道 80」歌詞】

何かで燃やすのが若い命  
何かに賭けるのが一度の青春さ  
苦しい日々には涙もあるけど  
それは胸に浸み込む熱い涙  
覚えておくがいいよ 一途に燃えた日々  
覚えておくがいいよ 二度とない日を  
戦え どこまでも力の限り  
我らブルーが勝利をつかむまで

すべてが優勝へ続く道  
すべてが栄光につながる道なのさ  
飛び散る汗にも生きてる輝き  
青く輝く空に誓った心  
覚えておくがいいよ 一途に燃えた日々  
覚えておくがいいよ 今日この日を  
優勝めざし戦うときに  
闘志は燃え上がる 我らブルー ヤー!



法服の安東さん

者の利益を守らねばならず、検察官も、公益の代表者とはいえ「被害者と共に泣く」立場にあります。裁判官

### 「法壇の上から」 安東 章（昭和58年卒） 東京高等裁判所判事

全国で次々と裁判員裁判が実施されています。我々裁判官は、裁判員の方々と仕事をすることで、感覚のずれや足りないところがあれば学んで改め、共によりよい刑事裁判を実現していきたいと考えています。裁判員の方々とともに、負担になるかとは思いますが、犯罪や捜査・裁判の実情を知り、被告人の行動・生活や被害者の心情について考えていただく、よい機会となり得るのではないのでしょうか。修猷館OBの皆さん、機会がありましたら、裁判員裁判への積極的なご参加をどうか宜しくお願いいたします。

2007年、2008年と放映されたNHKの「ジャッジ」はご覧になりましたか？島の裁判官を主人公にした、リアルでよくできたドラマでした。私は、行政庁出向や司法行政担当の期間も長いのですが、本業である裁判官の仕事を紹介したいと思います。

第一に、難しく、やりがいのある仕事です。裁判では、当事者双方が満足する結論はないのが通常で、例えば懲役10年の判決に対し、被告人・弁護人は本来無罪で刑も重すぎる、検察官・被害者は刑期が短すぎる、ということもよくあります。したがって、適正な結論を出すことはもちろんですが、判決では、当事者双方に対し、大事件ではさらに社会全体をも視野に入れた

後、小林・益川両氏と南部氏がノーベル物理学賞を受賞し、素粒子理論物理学に注目が集まりました。この機会に、同じ分野を研究している者として、理論物理学の研究についてご紹介したいと思います。

科学は人類の自然探究の結晶であり、その学問構造は芸術的な美を内包しています。また現在では、技術の基礎となり経済

2008年、小林・益川両氏と南部氏がノーベル物理学賞を受賞し、素粒子理論物理学に注目が集まりました。この機会に、同じ分野を研究している者として、理論物理学の研究についてご紹介したいと思います。

科学は人類の自然探究の結晶であり、その学問構造は芸術的な美を内包しています。また現在では、技術の基礎となり経済

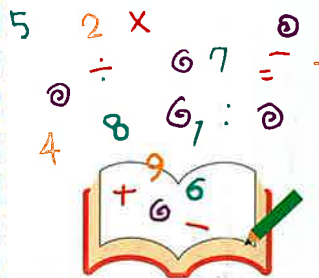


自然を統一的に記述する理論の有力な候補となつています。この弦理論を用いて自然界の物質や相互作用を再現することが、素粒子理論物理学の大きな課題です。

### 「修猷魂の薫陶が 研究者を育む」 森山 翔文（平成5年卒） 名古屋大学 多元数理科学研究科助教

科学は実験事実を基に発展してきましたが、近年の素粒子物理学の発展では多くの場合、実験よりも理論の方が先行しています。それは、設備の巨大化に伴う実験上の困難のほかに、物理法則の理解が進むにつれて、無矛盾な理論体系には強い制限がつくことがわかってきたからです。理論系の研究は紙と鉛筆が基本です。論文の精読や、他の研究者との議論にくわえて、時には大自然と向き合うことを通じて、自分の自然観を数式で表現する試行錯誤を繰り返しています。

科学は人類の自然探究の結晶であり、その学問構造は芸術的な美を内包しています。また現在では、技術の基礎となり経済



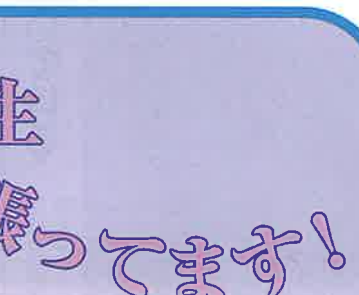
成長の原動力ともなっています。自身を振り返ってみると、大学入学試験だけでなく文化祭や運動会、日々の高校生活を通じて、忍耐強く目標に専念し達成することを重んじる修猷魂の薫陶を受けたからこそ、研究に没頭できたように思います。修猷館出身の研究者が多いのは偶然ではなく、そういった事情の現れだと信じています。修猷館で培った独立不羈の精神を持って、これからも自然科学の世界に多くの後進たちが羽ばたいていくことを願っています。



### 「心の奥底に刷り込まれた 修猷魂」 花嶋 温子（昭和55年卒） 大阪産業大学人間環境学部 生活環境学科講師

私も大阪から駆けつけました。さらに、同窓会総会には昭和

「記念植樹の時にスピーチをお願いしました。さらに、同窓会総会には昭和



### 「生7人に聞きました」



「食の安全」です。昭和34年の厚生白書に食

### 「持続可能な社会の実現を 目指して」 緒方 大助（昭和54年卒） らでいっしゅぼーや株式会社 代表取締役社長

「食の安全」です。昭和34年の厚生白書に食

「食の安全」です。昭和34年の厚生白書に食

「食の安全」です。昭和34年の厚生白書に食

「食の安全」です。昭和34年の厚生白書に食

「食の安全」です。昭和34年の厚生白書に食



「食の安全」です。昭和34年の厚生白書に食

「食の安全」です。昭和34年の厚生白書に食

「食の安全」です。昭和34年の厚生白書に食

平成21年東京修猷会総会へ出席させていただいたが、ここで勇壮なる飛燕の舞を披露してくれたのは私の空手道場の門下で指導的な立場であり昭和58年卒幹事学年の伊藤盛明君、尾崎哲郎君、そして世代を超えた修猷卒の勇士たちであった。

それぞれ社会の中核を担う多忙な面々がわずかな稽古時間にも関わらず一糸乱れぬ見事な演舞に感動した。そして、そこで放映された現役修猷館生の生の声を収録したビデオで心を大きく揺すぶられることになる。この理由は最後に述べよう。

私は現在、IT関連の会社を経営しながら非常勤講師として芸術系の大学でコンピュータ概論の講義を行っている。その一方、新しい考え方で空手道場も運営している。こうした立場で様々なタイプの若者と毎日接する。

IT関係の仕事で接する若者は、オタク的、良く言えばマイペース、悪く言えばエゴイステイ



2008年12月30日、私が作詞、作曲そしてプロデュースを手がけたEXILE「TIAm」は第50回日本レコード大賞をいただいた。音楽の作り手にとってこの賞がとくべつな意味を持つのは、ほかの多くの賞と違ってこれが歌い手のみならず作家陣も授賞対象にくまられるという点だ。授賞式に登壇した模様がテレビ中継されたせいもあるが、修猷時代の同窓生から見たくさんの連絡があった。親しい中本純徳君から贈られた鉢植えは今でも福岡の実家で家族や客人の目を惹きつけている。実にありがたいことである。

話は昭和50年代にさかのぼる。小学3年生の時だったとおも

は全く興味を示さないような若者まで、総じて個人主義的な傾向が強い。

いずれにせよ現代の若者の標準から大きくは離れていない。一方、空手道場に通う若者は、あきらかにこの二者とは異なる集団だ。彼らは義務として道場に通っているのではない。自らの意思で過酷な稽古を志願して通っている若者だ。

運動不足解消、健康志向といった表向きの理由だけでは説明できないエネルギーを彼らに感ずる。その根源は突き詰めれば武士道に行き着くと私は思っている。

規範としての武士道は山鹿素行、佐賀藩の藩政、そして新渡戸稲造など時代背景により解釈は大きく変わっている。しかしその底流となる心情は日本の風土を土台とした日本人に脈々と受け継がれた名誉や誇りを命をかけて守りたいという精神的な伝統である。これは現在世界の

主流となっている成果主義、個人主義、拝金思想と真つ向から対峙する思想である。

共産主義は20世紀を活性化し、そして衰退させた。成果主義は21世紀を活性化し、そしてやがて衰退させると私は予想している。そして誤解を恐れずに言う、新しい武士道が世界を救うと思っている。

ただ、この一見唐突な考えを狭小な国粋主義と勘違いしないでいただきたい。名誉を重んずる本でしよう！

永六輔ははつとした表情で「……この本に？」と訊きかえしたが、母に隠れるようにして自分を見あげてくれる私に気づく、やさしい表情を浮かべて「アナタも講演会に来てたの？」と頭を撫でた。けっきょく母の無礼を咎めることもなく『海舟余波』にサインをし、「じゃあまた」と笑って雑踏に消えた。

そのあと私たちはバスではなくタクシーに乗って家に帰った。母は答えた。日本ではいばん有名な作家、と。私は作家という職業があることを知った。

江藤淳のサインを欲した母は、彼の著書『海舟余波』を手に、講演会を終えて市民会館を出てくる江藤淳を見た。だがすでに彼はそこを後にしたようだった。事態がつかめぬ母は落胆していたが、気がとり直して帰路に着くべくバス停へと向かった。

その道すがら、信号待ちで偶然にも永六輔を見つけた。するとどうしたことか、母は「サインをください！」と言うや『海舟余波』を差し出したではないか。

幼い私にもそれが礼を失した行為だとわかる。母さん、それはエイさんではなくエトウさんの



2009年春、永六輔さんのTBSラジオ番組にゲスト出演した際にお話ししたのは、この時の思い出である。番組ホスト

「ベネズエラ奮闘記」  
藤本 昌義（昭和51年卒）  
双日株式会社  
MMC Automotriz, S. A. 社長

私がスタジオに持参した『海舟余波』を手にとった永六輔さんは、ご自身のサインをしばらく眺めておられた。そして私に母の名を訊くと、30余年前のサインのとなり新たに書き添え、その日の日付を記された。いま『海舟余波』はふたたび実家の書棚に還っている。

今回ベネズエラに赴任いたしました。この会社は商社であるが、93%のシェアを保有しており、一方自動車メーカーの資本参加が全くないという商社にしては型破りの事業会社で、三菱、現代、FUSOの車の組立生産をおこなっています。入社以来自動車畑

を歩んできたといっても、あくまで商社での経験であり、製造現場というのは未知の体験です。しかもボリバリノ社会主義革命を掲げるチャベス政権下において、労働問題は過激化する一方で、生産現場においては、サボタージュが横行し、不法なラインストップ、40%を超える欠勤率とこのままだとこの国の製造業は全滅ともささやかれるほどのひどい状況です。この原因は、政治的な野心を持つ労働組合幹部と労働者の解雇を禁ずるチャベス政権の方針により労働者が何をしても解雇されないという甘えがあり、笑い話のような話ですが、会社に酔っ払って来ても、部品を盗んだのを現行犯で見られても解雇できないというのが現状です。

社長就任早々の1月には正規の手続きを踏まない労働者による工場乗っ取りで、約3か月間生産を止めざるを得ない事態となりました。しかも裁判官が不法な工場占拠という判断を下しているにもかかわらず、国民投票で1票でも票が欲しいチャベス政権では、労働者側に不法性を問わず、会社に譲歩を迫り問題解決を図ろうとしました。労働者の仲裁で工場を再開した後労働組合は約束の生産を守らないどころか、サボタージュを先導して、また脅迫、暴力行為に及ぶなど目に余る行動が絶えず、結局会社として8月に工場を一時的にCLOSEすることを発表しました。

CLOSEを発表すると労働者は、その日のうちに今度は「不法な工場閉鎖」ということで会社側を非難しましたが、会社としてはベネズエラからの撤退も辞さない覚悟で政府との交渉に臨み、ようやく組合幹部の解雇および勤務態度の悪い労働者の解雇手続きを労働省として行うという言葉をこたえ、9月末に工場生産を再開しました。

現在のところ、約束通りの労働者の解雇が



カラカス、アピラ山頂（標高2600M）付近で奥様と

み慣れた福岡市を離れ、佐賀市に移り住んだばかりだった。市民会館で文化講演会が催されることになり、そこに江藤淳と永六輔の名前を見つけた母は、幼い姉と私を連れて会場へと足を

は退屈きまりなものであった。英国留学時代の夏目漱石についての講演だったように記憶しているが、何しろ私はまだ8歳かそこら。欠伸をおさえるのがやっと、という豚に真珠の態。

それより、会の後半に登場し、尺貫法についての行政の横暴を平易なことばで面白おかしく語る永六輔に興味をいだいた。ときに素っ頓狂な高音の早口でまくしたてるこのオジサンは、いったい何なのだ？ 私の問いに母は答えた。日本ではいばん有名な作家、と。私は作家という職業があることを知った。

江藤淳のサインを欲した母は、彼の著書『海舟余波』を手に、講演会を終えて市民会館を出てくる江藤淳を見た。だがすでに彼はそこを後にしたようだった。事態がつかめぬ母は落胆していたが、気がとり直して帰路に着くべくバス停へと向かった。

その道すがら、信号待ちで偶然にも永六輔を見つけた。するとどうしたことか、母は「サインをください！」と言うや『海舟余波』を差し出したではないか。

幼い私にもそれが礼を失した行為だとわかる。母さん、それはエイさんではなくエトウさんの

「修猷館魂に新武士道を感じた」  
園田 康博（昭和42年卒）  
株式会社日本オフィス機器 代表取締役社長  
東京造形大学 非常勤講師  
現代空手道研究会 会長

で見れば二極分化の典型である。畑違いの理数系の高度な才能を示す者も居れば、好きな事以外

「……この本に？」と訊きかえしたが、母に隠れるようにして自分を見あげてくれる私に気づく、やさしい表情を浮かべて「アナタも講演会に来てたの？」と頭を撫でた。けっきょく母の無礼を咎めることもなく『海舟余波』にサインをし、「じゃあまた」と笑って雑踏に消えた。

そのあと私たちはバスではなくタクシーに乗って家に帰った。母は答えた。日本ではいばん有名な作家、と。私は作家という職業があることを知った。

江藤淳のサインを欲した母は、彼の著書『海舟余波』を手に、講演会を終えて市民会館を出てくる江藤淳を見た。だがすでに彼はそこを後にしたようだった。事態がつかめぬ母は落胆していたが、気がとり直して帰路に着くべくバス停へと向かった。

その道すがら、信号待ちで偶然にも永六輔を見つけた。するとどうしたことか、母は「サインをください！」と言うや『海舟余波』を差し出したではないか。

幼い私にもそれが礼を失した行為だとわかる。母さん、それはエイさんではなくエトウさんの

「ベネズエラ奮闘記」  
藤本 昌義（昭和51年卒）  
双日株式会社  
MMC Automotriz, S. A. 社長

私がスタジオに持参した『海舟余波』を手にとった永六輔さんは、ご自身のサインをしばらく眺めておられた。そして私に母の名を訊くと、30余年前のサインのとなり新たに書き添え、その日の日付を記された。いま『海舟余波』はふたたび実家の書棚に還っている。

今回ベネズエラに赴任いたしました。この会社は商社であるが、93%のシェアを保有しており、一方自動車メーカーの資本参加が全くないという商社にしては型破りの事業会社で、三菱、現代、FUSOの車の組立生産をおこなっています。入社以来自動車畑

を歩んできたといっても、あくまで商社での経験であり、製造現場というのは未知の体験です。しかもボリバリノ社会主義革命を掲げるチャベス政権下において、労働問題は過激化する一方で、生産現場においては、サボタージュが横行し、不法なラインストップ、40%を超える欠勤率とこのままだとこの国の製造業は全滅ともささやかれるほどのひどい状況です。この原因は、政治的な野心を持つ労働組合幹部と労働者の解雇を禁ずるチャベス政権の方針により労働者が何をしても解雇されないという甘えがあり、笑い話のような話ですが、会社に酔っ払って来ても、部品を盗んだのを現行犯で見られても解雇できないというのが現状です。

社長就任早々の1月には正規の手続きを踏まない労働者による工場乗っ取りで、約3か月間生産を止めざるを得ない事態となりました。しかも裁判官が不法な工場占拠という判断を下しているにもかかわらず、国民投票で1票でも票が欲しいチャベス政権では、労働者側に不法性を問わず、会社に譲歩を迫り問題解決を図ろうとしました。労働者の仲裁で工場を再開した後労働組合は約束の生産を守らないどころか、サボタージュを先導して、また脅迫、暴力行為に及ぶなど目に余る行動が絶えず、結局会社として8月に工場を一時的にCLOSEすることを発表しました。

CLOSEを発表すると労働者は、その日のうちに今度は「不法な工場閉鎖」ということで会社側を非難しましたが、会社としてはベネズエラからの撤退も辞さない覚悟で政府との交渉に臨み、ようやく組合幹部の解雇および勤務態度の悪い労働者の解雇手続きを労働省として行うという言葉をこたえ、9月末に工場生産を再開しました。

現在のところ、約束通りの労働者の解雇が

「修猷館魂に新武士道を感じた」  
園田 康博（昭和42年卒）  
株式会社日本オフィス機器 代表取締役社長  
東京造形大学 非常勤講師  
現代空手道研究会 会長

で見れば二極分化の典型である。畑違いの理数系の高度な才能を示す者も居れば、好きな事以外



カラカス、アピラ山頂（標高2600M）付近で奥様と

「修猷館魂に新武士道を感じた」  
園田 康博（昭和42年卒）  
株式会社日本オフィス機器 代表取締役社長  
東京造形大学 非常勤講師  
現代空手道研究会 会長

で見れば二極分化の典型である。畑違いの理数系の高度な才能を示す者も居れば、好きな事以外

「修猷館魂に新武士道を感じた」  
園田 康博（昭和42年卒）  
株式会社日本オフィス機器 代表取締役社長  
東京造形大学 非常勤講師  
現代空手道研究会 会長

で見れば二極分化の典型である。畑違いの理数系の高度な才能を示す者も居れば、好きな事以外

「修猷館魂に新武士道を感じた」  
園田 康博（昭和42年卒）  
株式会社日本オフィス機器 代表取締役社長  
東京造形大学 非常勤講師  
現代空手道研究会 会長

で見れば二極分化の典型である。畑違いの理数系の高度な才能を示す者も居れば、好きな事以外

「修猷館魂に新武士道を感じた」  
園田 康博（昭和42年卒）  
株式会社日本オフィス機器 代表取締役社長  
東京造形大学 非常勤講師  
現代空手道研究会 会長

で見れば二極分化の典型である。畑違いの理数系の高度な才能を示す者も居れば、好きな事以外

「修猷館魂に新武士道を感じた」  
園田 康博（昭和42年卒）  
株式会社日本オフィス機器 代表取締役社長  
東京造形大学 非常勤講師  
現代空手道研究会 会長

で見れば二極分化の典型である。畑違いの理数系の高度な才能を示す者も居れば、好きな事以外

「修猷館魂に新武士道を感じた」  
園田 康博（昭和42年卒）  
株式会社日本オフィス機器 代表取締役社長  
東京造形大学 非常勤講師  
現代空手道研究会 会長

で見れば二極分化の典型である。畑違いの理数系の高度な才能を示す者も居れば、好きな事以外

「修猷館魂に新武士道を感じた」  
園田 康博（昭和42年卒）  
株式会社日本オフィス機器 代表取締役社長  
東京造形大学 非常勤講師  
現代空手道研究会 会長

で見れば二極分化の典型である。畑違いの理数系の高度な才能を示す者も居れば、好きな事以外

「修猷館魂に新武士道を感じた」  
園田 康博（昭和42年卒）  
株式会社日本オフィス機器 代表取締役社長  
東京造形大学 非常勤講師  
現代空手道研究会 会長

で見れば二極分化の典型である。畑違いの理数系の高度な才能を示す者も居れば、好きな事以外

カラカス、アピラ山頂（標高2600M）付近で奥様と



勝利の館歌斉唱後、満面の笑顔で修猷スタンドに挨拶に駆ける修猷館ナイン。（西日本新聞社提供）

修猷の熱い、熱い、長い夏だった。胸を熱くときめかせた夏だった。夏の甲子園出場をかけた、20年振りの県大会ベスト4（20年前の準決勝の相手は新庄剛志選手のいた西日本短大附）に躍進。全校応援3回。グラウンドの選手と全校応援のスタンドが一緒になった勝利の館歌が球場に轟くこと2回。誇りしかなかった。惜しくも甲子園初出場とはならなかったが、大濠や筑陽学園といった強豪校に堂々たる戦いを演じた修猷野球部の闘志溢れる勇姿は、修猷関係者のみならず多くの高校野球ファンを魅了した。

道のりは決して平坦ではなかった。秋の大会、春の大会と初戦で敗退し、公式戦未勝利のまま迎えた今大会。篠田悠主将（3）は「当初は昨年のチームのように優勝することができなかった。しかし、一冬越えて確実に力をつけることができた。」と今大会に臨んだ。

一回戦の香丘丘戦は4対3の逆転勝ち。二回戦の福岡戦は2対1の逆転サヨナラ勝ち。三回戦の九州産業戦は離されても、離されても、食らい付いた。2点先制された直後の1回裏に同点とし、一進一退の攻防が続いて延長戦。1点リードされ万事休すと思いきや、10回裏に2点を返し、2試合連続の逆転サヨナラ勝ち。

県大会初戦は、後にソフトバンクホークスがドラフト2位で迎えた9回裏、四球の走者を進め2死3塁。俊足の金子和弘選手（2）の3塁線の打球が1塁悪送球を誘い、今大会3回目のサヨナラ勝ち。この日は、学校で1時間の課外を受けての球場入り。流石は修猷健児。甲子園まであと2勝だ！

準決勝の筑陽学園戦の直前、全校応援のスタンドから「玄南の海」「修猷健児今立ちぬ。颯爽の勇姿翻る。」の歌詞そのままの光景に感慨無量。3回裏の筑陽学園の攻撃。2死1、2塁から左前打。被先制の大ピンチ！吉野聡志選手（3）のレーザービーム本塁返球を、上田啓祐

指名する、最速144キロ、185センチの大型左腕の川原投手を擁する大濠戦。大濠打線の振りは鋭く、打球は速い。しかし、修猷の守備は鉄壁。8回表まで4対0と零封。8回裏の反撃を2点で抑え、9回裏の最後の打者を中飛で打ち取った瞬間、全校応援のスタンドは総立ちの大歓声。川原投手を打ち崩し、一度もリードを許さず、篠田主将が川原投手に完全に投げ勝った。吹奏楽部全員が駆けつけた全校応援でも大濠を圧倒した。



筑陽学園戦、上田選手が必死のブロックで本塁死守（西日本新聞社提供）

### 修猷魂を次代に繋ぐ野球部

～昭和58年卒観戦記～

既日食の日。この試合からNHKテレビが放送。取られながら執念で取り返す、両校の魂が激突する壮絶な試合だった。先制、被逆転、逆転、被同点で迎えた9回裏、四球の走者を進め2死3塁。俊足の金子和弘選手（2）の3塁線の打球が1塁悪送球を誘い、今大会3回目のサヨナラ勝ち。この日は、学校で1時間の課外を受けての球場入り。流石は修猷健児。甲子園まであと2勝だ！

準々決勝の糸島戦は皆既日食の日。この試合からNHKテレビが放送。取られながら執念で取り返す、両校の魂が激突する壮絶な試合だった。先制、被逆転、逆転、被同点で迎えた9回裏、四球の走者を進め2死3塁。俊足の金子和弘選手（2）の3塁線の打球が1塁悪送球を誘い、今大会3回目のサヨナラ勝ち。この日は、学校で1時間の課外を受けての球場入り。流石は修猷健児。甲子園まであと2勝だ！

今年大会5勝は、1点差ゲーム4回、サヨナラ3回。死闘、激闘の連続。ミラクルかもしれない。しかし、それは不滅の練習で培われた「実力」と「魂の力」の証（あかし）である。一戦ごとに力を付けていった。全校応援の中、県大会の晴れの舞台で大活躍した野球部員の勇姿は立派だった。186センチの長身から丁寧な低目をつく変化球を武器に、走者を背負っても怯むことなく、冷静な投球を続けた篠田主将を、鉄壁の守備、ベンチとスタンドの野球部員、全校生徒、全世界からの修猷応援者の大声援が盛り上げた。

真鍋治彦さん（昭和46年卒）が中心となり、野球部OB会がAED（体外式自動除細動器）を寄附し、野球部員の健康と安全を支えた。



篠田前主将（左）から修猷魂を村山新主将（右）に繋ぐ。中央は衛藤監督（昭和41年卒）

修猷魂が宿る「修猷生、純愛の木」を前に必勝を誓った。篠田主将は「修猷が一度も行ったことのない甲子園に行つて欲しい」とその熱い修猷魂を後輩に託した。新チームを率いる村山新主将は「先輩たちが偉大な目標を作ってくれたので、甲子園目指して頑張ります。」と力強く宣言した。熱い修猷魂が次代に繋がれた。

（注）括弧内数字は学年を表す。

毎年5月、創立記念行事の一環として、また福岡での同窓会総会の際のイベントのひとつとして、卒業後30周年を迎える幹事学年が中心となり開催されるのが「進路別研究会」である。

### 進路別研究会

「世のため人のため」修猷魂を次代に繋ぐ

私は、医学部の人卒業したあとの進路が以前から気になっていた。今回の進路別研究会では、それを経験した人にしか分からない視点で教えていただくことができた。

私は、医学部の人卒業したあとの進路が以前から気になっていた。今回の進路別研究会では、それを経験した人にしか分からない視点で教えていただくことができた。

以下、今年度進路別研究会の講師として母校の教壇に立った卒業生から寄せられた感想と、昨年度の進路別研究会で講義を受けた生徒達の感想を雑誌「修猷」から抜粋して、それぞれ紹介する。

「レモン1個とイチゴ20個では、どちらの方がビタミンCが多いですか」「長く走ると速く走るとは、どちらの方が難しいと思いますか」「今、100万円あったら、何に使いますか」「きのうの夜8時頃、あなたはどこで何をしていましたか？」

人から感謝されるということ、先生もそのことの大切さを伝えるために、一番目に挙げられたのではないかなと思う。

私は、先生が医師という仕事を続けている理由として、「生死に関わる事柄で感謝してもらえると、おっしゃったことが心に残っている。



「レモン1個とイチゴ20個では、どちらの方がビタミンCが多いですか」「長く走ると速く走るとは、どちらの方が難しいと思いますか」「今、100万円あったら、何に使いますか」「きのうの夜8時頃、あなたはどこで何をしていましたか？」

### 進路別研究会へ参加して

～在校生の感想～  
（雑誌「修猷」平成21年1月発行より）

今回の建築についての講義は、私は建築の仕事はそれほど人脈が広がるものではないかと思っていた。しかし講師の方のお話を聞くと、地域の人、更には建物が建つことで影響が出てくる人達とのつながりも深まるのだということが分かった。

私は医師を目指している。実は先生のちょっとした医師を続ける理由は、私が医師になったと考える最も大きな理由の一つである。この講義は、今後の私の人生に大きく関わってくるものだろうと感じた。これからしっかりと勉強をして、人の命を救うことに喜びを感じることをできるようになりたい。

私は今、東京外国語大学留学生日本語教育センターで、世界各国からの様々な留学生を対象に日本語教育を行っている。

「あいうえお」からのクラスもあれば、現代文学を読んだりする超レベルのクラスまである。大学院の日本語教育学コースでは修士論文、博士論文の指導も行い、未来の日本語教師の養成

### 進路別研究会講師を体験して

～卒業生の感想～

講義の中で話された「この世の中は物語によって構成されている」という考え方は私はこれまでと大きく異なる。それと同時に大きな衝撃を受けた。浦島太郎の物語の真実や、ど

この仕事では相手に自分の考えを伝える必要はないため、建築の能力と同じくらい、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が必要とされていることも初めて意識した。

「あいうえお」からのクラスもあれば、現代文学を読んだりする超レベルのクラスまである。大学院の日本語教育学コースでは修士論文、博士論文の指導も行い、未来の日本語教師の養成

にも携わっている。共同研究プロジェクトで教科書作成や学習者の作文データベースの構築などを進めつつ、一方で自分の研究テーマの論文を書き、忙しい毎日である。しかし、これらのことが、私にはおそく楽しくてしようがない。その根底にあるものは何だろうか？

九州吹奏楽コンクール金賞受賞 吹奏学部

8月23日、第54回九州吹奏楽コンクールが福岡サンパレスで行われ、修猷館高校吹奏楽部の金賞受賞が決まった。各県の厳しい予選を勝ち抜いた26校が顔をそろえた今回の九州大会であったが、「今年こそ金賞を」との想いで苦しい練習を重ねてきただけに、75名の部員達、西嶋克



豊先生をはじめ、関係者の喜びもひとしおであった。平成18年秋、西嶋先生が顧問に就任された当時の吹奏楽部は、お世辞にもコンクールで入賞を狙える水準にはなかったそうである。しかしながら「吹奏楽部でもリーダーシップをとるべき修猷生を育てなければ」との思いから、部員達に基礎の重要性を説き、苦手だった反復練習を繰り返すことで安定したスキルを身に付けさせる一方、他校との合同練習を組み、そのよい面を吸収させつつ競争心に火を点けるといった様々な工夫をこらすことで、部員達の気持ちを一つにまとめあげることになった。地道な努力を積み重ねた結果、平成19年・20年と連続して九州大会銀賞という好成績をあげるに至ったのであった。

そして平成21年も、支部予選、県大会と順調に進み、九州大会での金賞受賞。しかし全国大会への切符はわずか3枚。残念ながら今回その栄冠を戴くことは出来なかったが、着実に実力をつけていることが証明された大会であった。



「絆」その愛と哀を歌う  
「土曜の午後、文化・芸術に接しながら同窓生の輪を広げよう」との趣旨から生まれた「サロンド・修猷」も3回目を迎えた。今回は現役のプロ歌手である森田澄夫氏（テノール・昭和41年卒）と小野山幸夏氏（メゾソプラノ・昭和53年卒）によるコンサート。参加者は30歳代

からなんと90歳代まで幅広く総勢83名。第1部は小野山氏出演。スペインの粋な小唄はじめ、チャップリンの映画に使われた歌などで会場は華やかに彩られた。ちなみにピアノ伴奏は岩城美智子氏（昭和59年卒）。これまでも小野山氏ほか多くの声楽家や器楽奏者と共演されている。第2部は森田氏出演。家族の絆をテーマに、息子の母への慕情、父の娘への慈しみ、そして夫婦の絆などドラマチックに熱唱され、会場は深い感動に包まれた。ピアノ伴奏は宮崎滋氏。ピアノストとしてだけでなく作曲家としても活躍中である。第3部は森田、小野山両氏が出演。会場への挨拶を交えながらフランクな雰囲気の中で進行

した。途中「百道浜」「玄界灘」といった福岡の地名が、お二人の演出により替え歌で盛り込まれると、遠い故郷を思い出し、時代が懐かしく思い出された。最後は全員で「ふるさと」を合唱しお開きとなった。後日、小野山氏から「皆様は笑顔で帰られるのを見送りが、少し幸せな気持ちになっていただけたかな、と嬉しくなりました」との感想をお寄せいただいた。そのとき「芸術は人を幸せにするものである」という、ある彫刻家の言葉を思い出した。そんな「芸術」を基調とした「サロンド・修猷」が、今後同窓生の大きな楽しみとなり、また同窓生の絆を強めるイベントとなるよう願ってやまない。小林 大輔（昭和57年卒）



3月14日福岡県人会青年会主催「桜花見会」に便乗しLA修猷会同窓会を開催。からしめんたい、バーベキュー、焼きそば、いなりずし、きんぴらごぼうなど、とても美味しかったです。新メンバーも参加され楽しい同窓会となりました。賞金を掛けたじゃんけんゲームや桜も楽しめました。アメリカは車社会です。公共の電車、地下鉄、バス路線はありませんが8割は自家用車通勤。広大なため全地域を公共交通機関で網羅できない、夜間や週末

コヤ中近東の世界遺産旅行を計画中です。ゴルフは九州修猷36会と年に1〜2回対抗戦をやっております。又情報交換の波を先取りして「バーチャル同窓会」のサイトを作り、36年卒の全国ネットワークで、知的な情報交換や重要テーマの議論、問題解決の専門的アドバイス、等で大いに盛り上がりつつあります。我々の同窓会のモットーは「とにかくオーマンにやろう！」であります。「オーマン」の定義は何か？と問われると、「うーん、それもオーマンに考えよう」という回答が我々の合意された考えです。お互いを認め合えば、多少の同窓生間の問題は「修猷館はいいね」で解決するようです。それから、不思議なことに「困っている人を助けよう」という助け合いの「心」が全員にあり、一人の同窓生の困っている問題に関し、各自の経験や専門的知識を提供しております。この心は禅の教えで「和光同塵」といいます。分か



の人数が少ない、夜間の治安が不安です。運転免許取得と車購入は必須です。その週末はWBC野球試合がサンディエゴで開催されました。メジャー野球、フットボール、バスケットボール観戦ができるのもアメリカ生活の醍醐味です。参加者：西山薫、松井美詠子、宮原ゆかり、和田佳織、池田紀子、河野友見、樺島那央、荻原ちずる（詳細：http://ashuyn.blogspot.com/2009/10/20093.html）  
榎山（宮原） ゆかり（昭和57年卒）

（昭和57年卒）

平成21年度 部活動実績（4〜8月）

|          |                               |
|----------|-------------------------------|
| 新聞部      | 第33回全国高等学校総合文化祭出場 優良賞         |
| ディベート部   | 2009年全国ディベート選手権 出場            |
| 陸上部      | 【男子・女子】 インターハイ・国体出場           |
| サッカー部    | 【女子】 第64回国体女子サッカー 福岡県代表に選出    |
| 化学部      | 全国高校化学グランプリ2009 日本化学会九州支部支部長賞 |
| 吹奏楽部     | 第54回 九州吹奏楽コンクール 九州大会 金賞       |
| 文体総合（囲碁） | 福岡県高等学校総合文化祭 3位 九州大会出場        |

その他 以下の部が県大会に出場し、好成績をあげました。

- 【文化部】 コーラス部、E. S. S.、書道部
- 【運動部】 ヨット部、弓道部、野球部、卓球部、柔道部、ソフトテニス部、バドミントン部、サッカー部

第二十五回東京修猷会二木会ゴルフコンペ

秋の修猷二木会ゴルフコンペを実施したのでご報告します。10月4日（日）神奈川県相模原市津久井町の長竹カントリークラブに老若男女の37名が集まり10組に分かれゴルフの腕前を競い合いました。前週までの長雨も止み翌週からは台風接近という天候状況の中、当日は曇りのち晴れ、風もほとんど無い最高のコンディションに恵まれ、70台が3名、80台が7名も出る大激戦でした。ダブルペリア方式でHCを集計した結果、優勝 芦原直哉さん（昭和45年卒） N.E.T.70・8、準優勝 松尾隆広さん（昭和54年卒） GROSS79 H.C.7・2、ベスコロ 鹿嶋正信さん（昭和46年卒） GROSS77 H.C.4・8、女子ベスコロは107で伊藤洋子さん（昭和35年卒）と前原豊美さん（昭和56年卒）が同

点でした。今回の参加者のうち初出場は14名、女子が5名含まれており、皆さん大健闘されました。お昼のランチではこちらで世代を超えて新しい館友の輪が生まれ、親睦を深めることができました。今回も多くの皆様から多数の賞品の提供を頂きました。また急用で残念ながら参加できなかったでした岡本泰仁先輩（昭和28年卒）、箱島信一会長（昭和31年卒）、西村英俊先輩（昭和36年卒）からも貴重な賞品をお送り頂きました。あらためて御礼申し上げます。お陰さまで一人のケガ人もなく無事クラブハウスへ戻って来られ、表彰式とその後の懇親会には多いに盛り上がる事ができました。卒年の差三十数年あるもののこの時ばかりは全員が十代の高校時代へタイムスリップしているようでした。次回、春の大会は2010年4月18日（日）、会場は千葉県方面で検討中。2月にはホームベ



二木会ゴルフ幹事 端野 智幸（昭和58年卒）

昭和36年卒 学年便り

東京修猷会の皆様、明けましておめでとございます。昭和36年卒の我々は、早67、68歳になる歳であることを認識はしていますが、我々が高校生の頃抱いた老人のイメージと違い、東京修猷36会有志一同、元気に第二の人生を楽しんでおります。東京修猷36会は毎月一回集まって酒を交えて、友好を深めています。奥様同伴の同窓会として「歩こう会」をつくり、2ヶ月に1回、最近少しペースが落ちました。都内の名所めぐり、郊外の自然散策をやっております。大体1日10kmは歩いております。この歩こう会の有志が企画して、エジプト・ピラミッド調査旅行、中国大連・北京旅行、ペルー・インカ遺跡調査旅行を実施しました。毎回20人前後の参加者があります。今年は、トル



（昭和36年卒）

